

# 【計画名:本間美術館を中核とした酒田湊町文化観光拠点計画】

## ①計画目標の達成状況

目標項目名(単位)	R2			R3			R4		R5		R6	
	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	目標	実績	目標	実績
来訪者の満足度(日本人)(%)	80	94.8	119%	81	94.1	116%	82		83		84	
来訪者の満足度(外国人)(%)	80	-	-	81	-	-	82		83		84	
来訪者数(日本人)(人)	3,000	13,855	462%	10,000	14,204	142%	20,000		30,000		35,000	
来訪者数(外国人)(人)	100	64	64%	500	53	11%	1,000		1,500		2,000	
酒田市への来訪客の平均滞在時間(時間)	3.00	4.40	147%	3.50	4.75	136%	4.00		4.25		4.50	
美術館会員数(人)	50	472	944%	200	404	202%	400		600		700	

## ②計画目標の達成状況に関する分析・評価

<p>(分析)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、目標値は令和2年度を底に徐々に回復基調に向かう想定だったが、令和2年度は想定ほどの大きな影響は発生しなかった実績となったものの、令和3年度は回復基調には向かわず、むしろ想定以上に厳しい実績となった。</li> <li>令和2年度及び令和3年度の外国人来訪者の満足度については、外国人来訪者数の激減により、調査サンプルを取ることができなかったため、「-」との表記とした。</li> </ul> <p>(評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>満足度調査では、目標を上回る高い評価をいただいたものの、新型コロナウイルス感染症の影響による観光客数減に伴い、サンプル数自体少ないことから、目標達成とは捉えず、参考程度に止める。</li> </ul>
---

## ③計画で取り組んだ事業の進捗状況

事業番号	事業名	R2	R3	事業類型毎の実績額
事業1-①	所蔵資料データベース化事業	仕様の詳細を検討	システム構築とアーカイブ化を実施	4.7百万円
事業1-②	北前船寄港地文化交流事業	交換展示を行う美術館等の検討	交換展示を行う美術館等の検討	
事業1-③	ナイトミュージアム事業	-	理事会での承認手続き	
事業1-④	外国人観光客向け体験型プログラム事業	体験型プログラムの検討	モニターツアーを秋・冬に実施	
事業2-①	展示コンテンツ改善事業	多言語化の進め方の検討	多言語化(キャプション)、Wi-Fi整備の実施	3.0百万円
事業2-②	外国人観光客対応観光ガイド派遣事業	外国語観光ガイドの派遣及び外国語案内ボランティアガイドの調整	外国語観光ガイドの派遣及び外国語案内ボランティアガイドの調整	
事業3-①	館内案内表示多言語化整備事業	-	案内表示板の製作を実施	3.1百万円
事業3-②	酒田まるごと美術館事業	無料観光用自転車設置施設での案内	無料観光用自転車設置施設での案内、ツアーの造成	
事業3-③	庄内ミュージアム連携事業	連携事業の継続及び新規連携事業の検討	連携事業の継続及び新規連携事業の検討	
事業4-①	美術館オリジナルグッズ開発事業	オリジナルグッズ試作のためのコンセプトの検討	オリジナルグッズ新商品3点の開発を実施	1.4百万円
事業5-①	酒田駅観光おもてなし事業	酒田駅観光案内所から本間美術館を含む観光誘客案内	酒田駅観光案内所から本間美術館を含む観光誘客案内	0百万円
事業5-②	酒田観光旅行商品造成支援事業	首都圏、東北管内、県内の旅行エージェントへの訪問・PR活動の実施	首都圏、東北管内、県内の旅行エージェントへの訪問・PR活動の実施	
事業6-①	誘客促進環境整備事業	-	館内整備事業(バリアフリートイレ、スロープ、身障者用駐車スペース、網戸)およびキャッシュレス決済システム導入の実施	12.9百万円
各年度ごとの実績額→		0百万円	25.1百万円	25.1百万円

## ④事業の進捗状況に関する分析・評価

<p>(分析)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事業1-① システム構築はできたが、全体スケジュールの遅れにより、アーカイブ化が予定通り進捗しなかった。</li> <li>事業1-② 交換展示先が決まらず、実施は令和5年度の調整とした。</li> <li>事業1-③ ライトアップ設備の設置、事業実施時の夜間臨時開館の取組について、理事会の承認を得た。</li> <li>事業1-④ 予定通りモニターツアーを実施できた。また、今後につながる可能性があるコンテンツの発掘もできた。</li> <li>事業2-① 展示解説の多言語化では、想定以上の労力と時間がかかり、負担感の高い委託業務となっている。</li> <li>事業2-② 外国人観光客の来訪が激減し、観光通訳ガイドの派遣要望も大きく減少した。</li> <li>事業3-① 予定通り多言語化した案内表示板を設置できた。</li> <li>事業3-② 既存の事業の範囲内での取り組みを継続。観光客増加の兆しに合わせて仕掛けのタイミングを窺う。</li> <li>事業3-③ 連携事業の検討を継続。酒井家400年事業がスタートし、共通テーマによる広い地域での企画展示を展開している。</li> <li>事業4-① 予定通りオリジナルグッズの開発を実施。売れ筋商品のマーケティングと絞り込み・検討を継続する。</li> <li>事業5-① 酒田駅乗降客数の大幅な減少により、期待された成果につなげることが困難な状況だった。</li> <li>事業5-② 観光業界全体が大きな影響を受けており、新たなツアー造成が難しい状況。継続した取り組みが必要。</li> <li>事業6-① 予定通り環境整備に係る工事を実施。</li> </ul> <p>(評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症の影響が長引き、入館者数だけでなく、事業の進捗自体にも影響が及んでおり、十分な検証時間を設けられず、適切な評価ができない。</li> <li>外国人観光客の大幅な減少により、十分なサンプル数が確保できず、外国人観光客向けの新規取り組みの効果検証が参考程度に止まる。</li> </ul>
---

### ⑤拠点施設の要件に関する取組状況

	↓文化観光拠点施設名
要件	本間美術館
・文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介	・収蔵品のデジタルアーカイブ化のためのシステムの構築が完了し、写真撮影、解説情報のデジタルアーカイブ化の作業を開始。 ・館内美術品のキャプションの多言語化を実施。ネイティブの書き下ろしによる解説文の提供を開始。
・情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介	・館内のWi-Fi整備を進め、キャプションに表示した二次元コードをスマートフォン等で読み込むと、多言語化したネイティブの書き下ろしによる解説文を読めるようになった。
・外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介	・館内案内表示板を多言語表示のものに更新を図った。 ・館内美術品のキャプションに二次元コードを表記し、スマートフォン等で読み込むと、多言語化したネイティブの書き下ろしによる解説文を読めるよう整備した。
・文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築	・近隣のビジネスホテル、飲食店、移動販売型店舗等と連携した取り組みについて、検討を始めたところ。
・文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析	・酒田観光戦略推進協議会において、文化施設、観光施設において、アンケート調査を実施し、酒田市全体及び本間美術館の観光客の動向を継続的に分析している。
・文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びKPIの設定・PDCAサイクルの確立	・今回の文化観光推進法に基づく認定を受けたことを契機に、文化施設と観光施設の連携促進、相乗効果が得られるような取り組み、事業の検討を開始。KPIとして、3年後の令和6年度には、新型コロナウイルス感染症の影響による入館者数減からのV字回復を果たす数値目標を設定。事業実施の成果を毎年度検証し、当該結果を踏まえた次年度事業方針を定例理事会で協議する。

### ⑥観光関係者（DMOなど）からの評価

・新型コロナウイルス感染症の影響で市全体の観光入込数が約33%減少し、ホテル等の利用者数もコロナ前に比べ約16%減少（2021年度と2019年度の比較）しており、ワクチン接種率の向上による感染者数の減などで若干の持ち直しが見られるものの、いまだ観光業界は危機的な状況にあるといえる。そのような状況の中、本計画が動き出すことにより、新しい体験プログラムの提供・新しい観光資源の磨き上げが進み、新たな観光客の取り込みや滞在時間の延長・消費額の上昇が期待される。（酒田観光戦略推進協議会事務局）

### ⑦今後の改善の方向性

・事業2-①について、多言語化対応した美術品のキャプションが館内の随所に行き届くよう、継続して取り組む。また、英語のネイティブによる書き下ろし解説を作成したノウハウを活かし、他の言語（中国語（繁体字・簡体字））による作成を進める。  
・事業4-①については、テスト販売を継続し、購入者アンケートの分析を更に進めた上で、来館者の属性（国内・国外）及びそれぞれの需要回復のタイミングに合わせた新商品の投入とする。また、仕入れ原価と販売価格だけに捉われず、過剰在庫とならないよう、適切な商品管理を行えるような管理運営を行うようにする。